

# 師弟関係にある二人—— 三重農業 次代につなぐ<sup>①</sup>

米、麦、大豆  
津市 川口邦次さん、澄人さん



邦次さん④と澄人さん

【津安芸】川口邦次さん(75)と息子の澄人さん(28)は津市芸濃町で、米、麦、大豆を栽培する。川口さん親子と従業員3人で20秒を管理する。邦次さんは「農業は自然の影響が大きいので、天候と作物の成長を見極めて作業することが重要。1日の作業が1年分の出来につながり、手間をかければかけるほどおいしくなると息子によく

親子

## 毎日の作業を大切に

【津安芸】川口邦次さん(75)と息子の澄人さん(28)は津市芸濃町で、米、麦、大豆を栽培する。川口さん親子と従業員3人で20秒を管理する。邦次さんは「農業は自然の影響が大きいので、天候と作物の成長を見極めて作業することが重要。1日の作業が1年分の出来につながり、手間をかければかけるほどおいしくなると息子によく

「米、麦、大豆」を栽培する川口さん親子。邦次さんは「農業は自然の影響が大きいので、天候と作物の成長を見極めて作業することが重要。1日の作業が1年分の出来につながり、手間をかければかけるほどおいしくなると息子によく

米、玄米パックご飯  
東員町 岩田雅弘さん、雅典さん



家族に囲まれグータッチをする雅弘さん(後列左)と雅典さん

親子

## パックご飯起爆剤に

【みえきた】岩田雅弘さん(72)と息子の雅典さん(40)は東員町で20秒の農地を管理し、米作りと意気込む。

雅典さんが農業の道を歩み始めたのは、2003年夏。それまで20年間勤めた会社を辞め、父・雅弘さんが営む1畝の農地を受け継いだ。「コロナ禍を経て、今後の生き方を見つめ直し、家族と多くの時間を過ごせる農業を選んだ」と雅典さん。知人の農作業を手伝う中で農業の魅力に触れ、父に相談すると快く迎え入れてくれたという。



そかにしてはいけない」と話す。

親子

## 家族助けたい 一心で

その教えを受け、雅典さんは基礎を守りつつ、新技術の導入に積極的だ。乾田直播(ちよくは)やドローンを活用したスマート農業など、効率化と生産性向上を目指し挑戦を続ける。「父の存在があるからこそ、新しいことにも安心して挑める」と感謝する。

【みえなか】小田農園の小田さん親子は、津市でキャベツを3畝生産する。目標は「健康なキャベツを作ること」。植物が本来持つ力を高めるとされるバイオスティミュラントという考え方の下、病気になるのを防ぐために防除するのではなく、病気にかららないような強いキャベツ作りを

キャベツ  
津市 小田和生さん、和範さん



キャベツ畑でガッツポーズをする和生さん④と和範さん

雅弘さんは「息子は自由によっているように見えて、実は慎重。私はただ、自由に組み立てる環境を整えるだけ」と静かに見守る。その背中を追いつつ、雅典さんは「父から受け継いだ経験と新しい視点で、農業の可能性を広げていきたい」と抱負を語る。

祖母  
×孫

## 目指す味へ一歩ずつ

【伊勢】玉城町の新谷正子さん(81)と孫の昇大さん(30)は、約8畝でイチゴ「かおり野」を栽培する。約2年前、正



正子さん④と昇大さん

は、寂しい」と感じた昇大さんが就農を決意した。昇大さんは、食品会社に勤めながらも栽培を手伝ってノウハウを学び、昨年9月に就農した。

対峙しきれないことも多いが、講習会などへ積極的に参加する他、他の生産者と情報交換をして、その都度さまざまな手法を取り入れている。